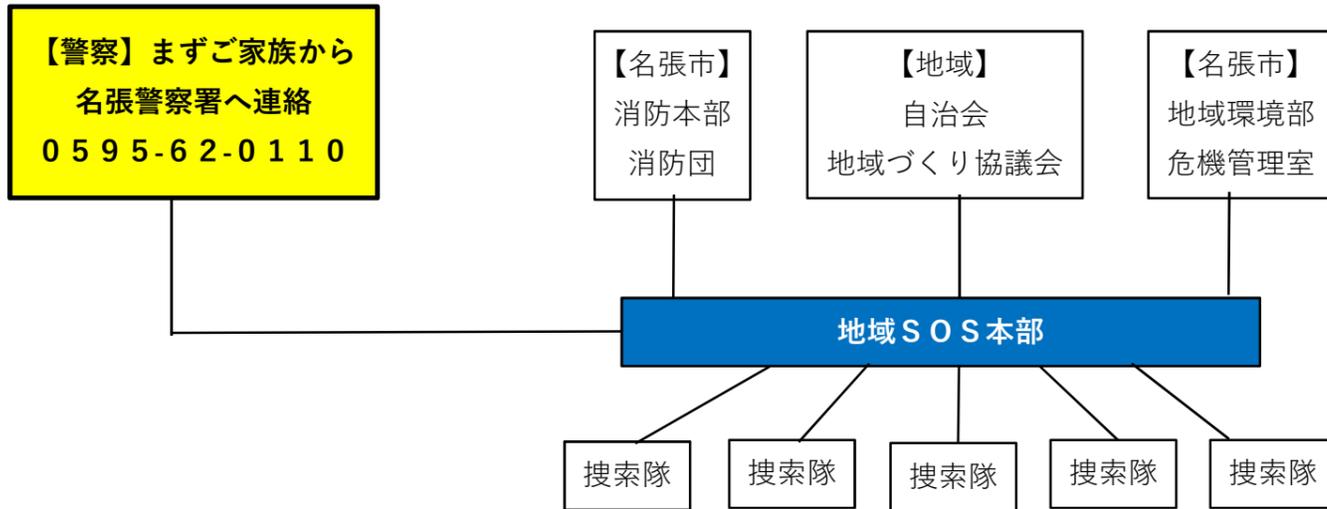


地域SOSシステム

このシステムは、ご家族のどなたかが行方不明になりご家族だけでは検索が困難と判断され、地域に検索協力を要請した場合に、地域・名張市・消防本部・等が連携して検索を行なう仕組みです。



＜地域へ検索協力を要請する場合の連絡の流れ＞

- ①ご家族から警察署へ連絡した後に、自治会長（又は役員）へ協力要請の連絡。
- ②自治会長（又は役員）から、地域づくり協議会会長（又は百合が丘市民センター）へ連絡。
- ③-1地域づくり協議会会長（又は百合が丘市民センター）から、市役所と消防本部へ連絡。
- ③-2地域づくり協議会会長（又は百合が丘市民センター）から、地域関係者へ連絡。

警戒レベル

※『逃げ遅れ』を出さないために避難の目安を知っておこう！

警戒レベル	住民(あなた)が取るべき行動	市からの避難情報	防災気象情報
1	災害への心構えを高めてください。	気象庁が発表	早期注意情報
2	避難に備え、自分の行動を確認してください。	気象庁が発表	・洪水注意報
3	＜危険な場所から高齢者などは避難＞ ・避難に時間のかかる人(高齢者、障害者、乳幼児など)とその支援者は避難を開始してください。 ・その他の人は、避難の準備を整えましょう。	高齢者等避難開始 避難準備	・大雨警報 ・洪水警報 ・氾濫警戒情報
4	＜危険な場所から全員避難＞ ・速やかに危険な場所から避難行動をとってください。 ・指定避難場所への移動が危険な場合は、近くの安全な場所に避難しましょう。	・避難勧告 ・避難指示(緊急)	・氾濫危険情報 ・土砂災害警戒情報
5	既に、災害が発生しています。命を守るための最善の行動をとってください。	災害発生情報	・氾濫発生情報 ・大雨特別警報

災害時の避難

災害発生後、避難所は、あくまで被災して自宅での生活が困難な人々のために開設されるものであり、また、避難所に行けば必ず安心というわけでもありません。

避難所は共同生活のため、プライバシーを守ることも難しく、居住スペースや物資にも限りがあり、決して良好な環境とは限らないため、逆にストレスなどで体調を崩してしまうこともあります。感染症予防のため「3密」を避けたり衛生管理が必要となります。

避難方法には、①自宅で避難する【在宅避難】（垂直避難、車中泊やテント泊を含む）と、②自主避難先として予め親戚や友人と約束をしておく【分散避難】と、①・②ができない場合に③【指定避難所】があります。避難は明るいうちに行いましょう。

①【在宅避難】（垂直避難、車中泊やテント泊を含む）

震度6強程度の揺れでもタンスなどが倒れないように日頃から家具の転倒防止策やガラスの飛散防止策を行ない、家の中の安全を確保しましょう。

また、洪水などで1階が危険な場合は2階など高い場所に避難します。（垂直避難）



★いずれの場合も、食料・水・日用品・非常用トイレなどの生活物資の備蓄が必要です。

②【分散避難】（自主避難先）

災害が起きる前から、万一自宅が被災して避難生活が出来なくなること想定して、近くの親戚や友人と避難先として受入れてもらえるように約束を取り交わしておきます。

そうすることで、指定避難所に集中することなく本当に必要としている方々に指定避難所を使用してもらう事ができます。



③【指定避難所】

【在宅避難】や【分散避難】が困難な場合は【指定避難所】を躊躇せず利用します。

当地域の名張市の指定避難所は「名張青峰高校」、「百合が丘小学校」、「百合が丘市民センター」の3箇所です。自治会ごとに避難先が決められています。また、指定避難所は、他地域などからの避難者を受入れること【広域避難】が求められています。そのため、可能な限り【在宅避難】、【分散避難】の備えをお願い致します。

自治会別指定避難所	避難所
A区	名張青峰高校：西1番町、東1番町、東2番町、東4番町、東6番町、東7番町
B区	百合が丘小学校：東3番町、東5番町、東8番町、東9番町、南百合が丘
C区	百合が丘市民センター：西2・5番町、西3・6番町、西4番町

出典：日本気象協会資料より

避難生活場所の選択肢



雨の強さと降り方

雨の強さ	1時間あたりの降水量	降雨の状況・イメージ
猛烈な雨	80ミリ以上	息苦しくなるような圧迫感。恐怖を感じる。 水しぶきで辺り一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。車の運転は危険。
非常に激しい雨	50ミリ以上 80ミリ未満	滝のようにゴゴと降り続き、傘は全く役に立たない。 寝ている人の半数くらいが雨に気づく。
激しい雨	30ミリ以上 50ミリ未満	バケツをひっくり返したように降り、道路が川のようになる。 ハイドロプレーニング現象により、高速走行時にブレーキが効かなくなる。

出典：日本気象協会資料より



- ★大雨や強風でもライフラインが寸断されることがあります。不意の停電や断水などに備えて日頃から生活用品の備蓄をしておきましょう。
- ★また、山間部や崖の近くでは土砂災害が発生し易くなります。万一に備えて避難方法や避難先をご家族で決めておきましょう。
- ★1時間当たり20mm以上の雨の場合は出来るだけ外出を控え、万一外出先で大雨に遭遇した場合は、近くの頑丈な建物などに避難して命を守りましょう。

災害時の備蓄量の目安 ※発災後、家族全員分で7日間分の備蓄が推奨されています。

●体重1Kg当り1日に必要な飲料用分量(他に洗濯などの生活用水が必要です)

・成人	40～50 mL	(計算例)	父：70kg×50mL=3.5L	
・学童	60～80 mL	母：50kg×50mL=2.5L		
・幼児	90～100 mL	娘：20kg×80mL=1.6L		
・乳児	120～150 mL	息子：30kg×80mL=2.4L		
			合計	10L/1日

出典:東京医科歯科大学名誉教授 藤田紘一郎著『知られざる水の「超能力」』講談社、2006年、p.183より

- 食品は非常食だけで7日分を準備するのではなく、食べ慣れた食品を3日分程度補充しておき発災時は、先に食べ慣れた食品を食べるか、非常食と交互に食べると良いでしょう。
- カセットコンロ、携帯ラジオ、非常時用蓄電池、懐中電灯、乾電池、など、ライフラインが寸断されても7日間は自力で生き延びる備えをしておきましょう。

震度とゆれの状況

0 [震度0] 人は揺れを感じない。	1 [震度1] 屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。	2 [震度2] 屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。	3 [震度3] 屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。
4 [震度4] ●ほとんどの人が驚く。 ●電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。 ●座りの悪い置物が、倒れることがある。	6弱 [震度6弱] ●立っていることが困難になる。 ●固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。 ●壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。 ●耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。 耐震性が高い 耐震性が低い	6強 [震度6強] ●はわないと動くことができない飛ばされることもある。 ●固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。 ●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。 ●大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。 耐震性が高い 耐震性が低い	
5弱 [震度5弱] ●大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。 ●棚にある食器類や本が落ちることがある。 ●固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。	5強 [震度5強] ●物につかまらなさと歩くことが難しい。 ●棚にある食器類や本で落ちるものが増える。 ●固定していない家具が倒れることがある。 ●補強されていないブロック塀が崩れることがある。	7 [震度7] ●耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに増える。 ●耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。 ●耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。 耐震性が高い 耐震性が低い	

この表は、ある震度が観測された時に、その周辺で発生するゆれなどの現象や被害の目安を示したものです。

出典：気象庁ホームページから引用 詳しい解説は以下の気象庁ホームページに掲載しています。
 気象庁震度階級関連解説表 <https://www.jma.go.jp/jma/kishou/kuon/shindo/kaisetsu.html>

- ★南海トラフ沿いの大規模地震(M8からM9)は、今後30年以内に70から80%の確率で発生すると予測されています。
- ★名張市では南海トラフを震源とする大規模地震で「震度6強」の揺れと「警戒レベル5」を想定した防災訓練を実施しています。
- ★上図の赤い点線で囲った「震度6強」の「ゆれの状況」を読んで頂き、どんなことが起きるのか、理解を深めてください。その上で、ご自宅での被害想定をご家族で話し合い、必要な対策を進めましょう。